

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	観光施設整備事業	会計	一般会計	事業No.	474	施策順No.	11-047
		事業種別	政策・その他	予算科目	7-1-4-11-1		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	観光課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	1	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	観光施設						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	整備を必要とする観光施設(箇所)	10	10	10	15	15		
	対象をどう変えるか	観光客の利便性と快適性の向上を図る							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		観光地として利便性、快適性が高いと感じる観光客の割合(%)	45	50	52	57	55		B
		クレーム数(件)						10	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		観光施設の利便性、快適性の向上を図るため、優先順位付けを行い年次計画により施設整備を行った。限られた予算の中で十分な整備とまではいかないが、観光客の満足感、また安全安心に利用いただけるように努めた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	観光客の利便性を高め、受入環境を向上させるため、観光地等に四阿、看板、遊歩道等の施設を整備する。観光誘客の基本整備はトイレであり、施設整備を実施する。団塊の世代が山岳観光に高い関心を示している中で、登山道及び誘導ルートの安全整備を実施する。施設の安全利用と保守につながる環境整備事業を実施する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 観光施設の整備改修工事 (1) 沢城湖周辺施設整備(取水及び景観整備) (2) 登山道整備工事(中央アルプス関係) (3) その他施設整備 2 大平宿観光施設整備 (1) 大平宿の建物調査 (2) 大平宿水源施設改修工事 ア 取水環境整備 イ 配水施設改修工事 (3) 大平宿景観整備(支障木伐採)	1 整備か所数 2 (1) 調査棟数 (2) 改修工事 (3) 支障木伐採数	1 10か所 2 (1) 1棟 (2) 1式 (3) 30本
23年度実施計画	1 観光施設の整備改修工事 (1) 沢城湖周辺景観整備及び沢城荘施設整備 (2) 中央アルプス摺古木山登山道並びに施設及び安平路山登山道並びに施設整備 (3) 自然遊歩道安全対策 (4) 大平宿民家等整備修繕 ア 民家測量調査設計等 イ 民家ハード整備 ウ 支障木伐採等景観整備 エ 公衆衛生電話設置工事 (5) 山本都市農村交流促進施設施設整備 校舎排水処理修繕工事 (6) その他施設整備	1 観光施設整備か所数 2 大平宿民家調査棟数 3 大平宿支障木伐採数 4 大平宿公衆衛生電話設置数	1 15か所 2 1棟 3 30本 4 1台

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	特定財源	国庫支出金				
		県支出金				
		起債				
		その他				
	一般財源		8,660	8,566	7,700	
	計(A)		8,660	8,566	7,700	
	正規職員所要時間			300		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			1,073		
	トータルコスト A+B			9,639		

4 事業に対する市民や議会の意見

地域からの整備要望は多くあり、優先順位付けを行い年次計画により実施していく必要がある。また、施設の老朽化等も進んでいる。さらにはトイレの水洗化や環境に負荷の少ない処理方法によるものなどが求められている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業等が観光消費額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	観光消費額(億円) 経済自立度(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか	4年間の振り返り	・観光施設を整備することで観光客の利便性と快適性は向上し、そのことにより観光施設の魅力を高めリピーターの確保につながっている。		
	後期に向けた課題	・観光施設を整備するだけでなく、そこに何らかのお金を落とす仕組み作りが必要である。それには観光事業者との連携が不可欠である。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・施設を保有する地域や団体等と連携した整備に取り組んできた。 ・利用者の声を反映することで利便性と快適性の向上に努めてきた。		
	後期に向けた課題	・市内観光施設は多くあり、優先順位付けを行い年次計画による施設整備が必要である。また、その観光施設への誘客を活性化させるような事業の見直し、さらには地域の団体等との連携した取り組みが求められる。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・元気づくり支援金などの補助金を活用。		
	後期に向けた課題	・限られた予算の中で有効な施設整備をするためには優先順位付けが重要である。しかし、観光客の安全安心の確保を考えた場合、コスト削減には限界もあり、そのための補助金の有効活用等も課題である。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・適切であった。		
	後期に向けた課題	・特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①大平宿生活原体験施設にあってはNPO法人大平宿をのこす会を指定管理者とし、飯田市保健休養地にあっては飯田観光協会を指定管理者とし施設の維持管理や周辺環境整備を行っていただくことができた。 ②軽微な修繕は指定管理者が行い、改修工事等大規模工事は行政が実施してきた。施設に係る情報交換を頻繁に行ってきた。		
	後期に向けた課題	・指定管理者制度を導入している施設にあっては、市と指定管理者との役割分担を明確にする必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・市内には多くの観光施設を有しているが、限られた予算の中で優先順位付けを行い観光地としての利便性と快適性の向上に努めてきた。しかしながら、すべての要望等に対し満足のいく施設整備とまでは至っていない。 ・整備にあたっては指定管理者、あるいは地域の団体等とも連携を図りながら実施することができた。		
	後期に向けた課題	・観光地としての質の高さが要求される中、施設の老朽化とともに整備ヶ所が年々増加傾向にある。観光施設においては危険要因を取り除き、安全性を確保することが何より重要視されており、当地域へのリピーターの確保のためにも施設整備費の確保が重要である。 ・大平宿生活原体験施設において、観光客の更なる利便性と快適性を向上するうえで簡易型水洗トイレの建設が求められる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--